

二月廿日午後七時三十分黒田辦理大臣井上副辦理大臣朝鮮國大臣申樞子滋承ト執事廳ニ於テ談判浦瀬裕通譯森山茂野村靖安田定則小牧昌業鈴木大亮荒川徳滋陪坐相見ルノ儀畢テ

大臣

今夕來訪スルハ今日訓導ヨリ宮本ハ引合タル條約案ノ儀ニ付面接ヲ請シル儀ナリ

申

今日議政府ヨリ公文到來之ヲ貴大臣ハ御覽ニ入ルヘキ旨申越セリ過刻訓導ニ命ニ御旅館ニ持セ遣シタルハ即チ是ナリ當所ハ御出會前ニテ御一閱無之趣ニ付今貴覽ニ呈ス

大臣

拝見致スヘシ

此時議政府ヨリ申テ大臣ハ委任状及我々大臣ハノ照會文ヲ出々一覽了テ

申

議政府照會案ハ此文面ニテ御異存無之ハ其趣京師ハ申遣シ署印ノ上差違可申先ヲ御内見ニ供シタルナリ

大臣

己ニ一覽ハ經タル共猶持テ歸リ熟考ノ上後日何かノ回答致スヘシ

申

兼知セリ

大臣

今日訓導ヨリ官本へ引合ノ趣ニテハ條約批准ノ儀御異存有之旨承リタリ條約案ノ儀ニ有過日來御談判ノ次第ニ有之相改シテ箇條不少然ルニ批准シ儀ハ條約ノ大眼目ニシテ必ス君主ノ署名給印ヲ要スルハ過日官本ヨリモ申述タル通ナリ今國王ノ御名ヲ署サルハ出来難シトナレハ條約ヲ結ワノ詮無之最初御悞議ニ又ヒシ條款中緊要ノ件モ兩テ貴意ニ應シ我カ政府ニテ不滿意ノ儀トハ存シタレド初稿ヨリ許多減削セリ祖批准署名相省クノ事ニ至テハ決シテ貴意ニ從ヒ難シ乃チ我カ皇帝陛下ノ御批ニ追テ差進スルハキ苦ナレハ國王批准署名ノキノ條約書ノ受取リ復命イタ

シ難シ

甲

兩國交際ノ道ハ誠存禮義ヲ以テ主トス批准ノ儀ハ先日吳慶錫吉昔運テ貴館ニ差出シ取ラセタルニ朝鮮國王御實トノト認メ有之其儘京師ニ稟報セリ尤モ右批准ハ臣下ニ對シタルノ大意ナレハ我カ國ニ於テハ臣下ニ對シ玉名ヲ署スル儀無之右ハ夜前官本代ハモ續々申述置タリ然ルニ臣下ヨリ其君ニ對シ署名ヲ請フハ禮ニ於テ不可トス此事ハ本大臣死ストモ能ハス且先日示サレシ文案ニモ御名ヲ署スルノ事ナク既ニ朝廷ノ次議ヲ經シ今更中立ルハ如何ニモ不都合ナリ

大臣

我國ト清國トノ條約ニ至ニ御批ノ國文ヲ交換ス
谷國皆然リ尤モ從前貴國國書ニモ國王ノ御名ヲ
署セリ今批准署名ナケレハ條約相結ト候儀ニ至
リカタクレ

申

最前申上レ通此事ハ京師ハ稟報ノ御名ナキ
者ニテ差出タルハ今又署名ノ儀ヲ稟議スルハ
ハ大ニ人心ニ關係シテ容易ナラス且谷國ノ例
ヲ引キ諭サルトイハ共國各其法アリ我國ハ
我國法ヲ守ルヲ以テ至當トセリ

大臣

原稿ニ朝鮮國王御寶トアリレハ署名押印ノ儀ナ

ソ

申

我國ニ於テハ外國通信ニハ為政以德ノ御寶ヲ
用ヒ朝鮮國王及御名ヲ刻シタル印章ナレ

副大臣

國王署名ハ如何ニモ不相叶之ヲ為シ條約成ラス
交際破ルニ至ルモ已マヲ得サルヤ

申

大臣ノ身トシテ國王署名ノ儀ヲ申請スルハ何
分相叶不申併シナカテ貴大臣等ニ候賅レ修好
ノ發端トシテ完成スルノ際ニ至リ批准一途ヲ以
テ交誼ヲ揚ルハ誠ニ遺憾ノ次第ナレハ情實篤ト御諒有之度

副大臣

勿論兩國ノ文誼ヲ傷ムルヲ欲セサルカ故ニ及覆辨
論ニ及ヒレナリ貴大臣等動モスレハ禮典ヲ主張
イタサルレ共各國文際ニ於テハ自國ノ禮ヲ執テ
之ヲ他國ニ行ヒ難キコトアリ兩國條約ヲ結フニ御
批ナケレハ其國君ノ許可ヲ經タルヤ否ノ儀判然
タル證憑ナレ御名ヲ署スルハ貴國ノ禮ニ擬アル
ニモセヨ之カ為ニ文誼ヲ傷リ民ヲ塗炭ニ苦ムル
ト孰ク重ト孰レカ輕キ

申

臣トシテ君ニ請フニ署名ヲ以テスルハ禮ニ於
テ吾ノ能ハサル所ナリ何卒本官等為ニ得ハキ
事ヲ御相談被下タレ批准ノ体裁議政府ノ奏本
ニ國王ヨリ先ノ字ヲ署セラレタル者ニテハ如

何

副大臣

國王ノ署名ナク唯先ノ字ヲ記レタル而已ニテハ
證憑トスヘキ者ナク兩國君主ノ締約タルヲ公認
スルヲ得ス一體條約ハ必ス其君主ノ御批アルハ
萬國普通ノ法ナルニ貴大臣等言フ左右ニ托レ之
ヲ拒ムハ文誼ヲ傷ムルノ意アルハ非スヤ

申

我カ政府ニ於テ曰好ヲ重シスルカ故ニ我輩ノ
派ト貴大臣等ニ接見ニ修好ノ事ヲ議ヒシノシ
リ豈ニ精頑ノ意アラシヤ唯批准ノ一事ハ臣下
ニ對シテ御名ヲ署スルハ猶父ノ其子ニ對シ已カ
名ヲ親書スルカ如ク其理ナシ

大臣

貴國ノ禮ニ於テハ然ルヘシト雖ニ條約批准其君
主ノ署名アルハ普通ノ法ナリ本大臣等命ヲ奉シ
國ヲ出ルヤ兩國永遠不易ノ條約ヲ議立スヘキヲ
委仕セラレシニ今御名一事ヲ以テ和議諧ハサル
ニ至ルハ片ハ實ニ遺憾ニ堪ヘス我國年來貴國ト旧
好ヲ續クノ盛意貴國之ヲ省セス今又專ラ自家ノ
禮典ヲ主張セラレハニヨリテ條約ヲラサルニ至
ラハ我國情紛紜兩國必ス平和ヲ保ツテ得サルハ
シ抑我國長崎ヨリ此地ニテ貴國里清ニテ二千ニ
三百里下ノ関ハシク之ニ過ク汽船ニテ此地ニ
航スルニ昼夜ヲ踰ハス今和好ノ議決定スル迄此
兩港ハ我々兵隊屯集シ居レリ既ニ先日呂川光下

ノ関ヲ發スル時ハ大臣等ハ貴國ニテ暴撃ニ遭
タル杯ノ風説アリ稍紛紜ヲ生セシ由尤兩國商議
ノ條件互ニ相譲リ得ヘキ事ハ曲從ス可シト雖モ
緊要ノ處ニ至テハ相譲ル能ハス即チ御批一節是
レナリ此事諧ハナレハ兩國講和ノ道ニ絶ヘ必ス
紛紜ヲ生セン其時ニ至ラハ貴大臣等必ス思ヒ當
ラルヘシ右ハ直ニ肺腑ヲ吐露シ陳述ス遺憾トレ
ニ貴大臣等ニ會晤スルモ今夕ヲ限リトス

申

我國ニ於テハ決シテ和好ヲ傷ルノ意ニ無ク
乃チ釜山ヨリ先報ノ意ヲ蒙ツ本大臣等ニ派
出
接見シ修好立約ノ件已ニ七八分ニ至レリ批准
ニ國王、御賢ヲ押スルハ稟議ノ上ハ相違フヘ

レ御名ヲ署スルハ何分モ行ハレ難シ夫ニ記
ラハ然ルハク更ニ便法ヲ示サレタシ

大臣

貴國禮典ノ儀ハ既ニ己ニ承知セリ然レナカテ事
ニ變通ナカル可ラス即チ此茶碗ノ如キ茶ヲ斟
ノ器ナレトモ亦他ノ物ヲ盛ルニ換用スハレ世ノ
開化ニ隨テハ一概ニ拘泥ス可ラサル者アリ大
銃ノ如キ往昔ハ火繩ヲ用キ火ヲ發ス今貴國ニ用
フル者其是ナリ其後燧ヲ用ヒ之ヲ鑽リテ火ヲ
發スルニ變シ現今ハ雷管ヲ用ユ砲銃アリ元
アリ圓彈ヲ發シテ長彈トナス變スル毎ニ益精巧
ナリ大砲ノ最精ナル者一脈ニ三發十丁ニ達スハ
キアリ此地ニ携ハ来レリ日新ノ効己ニ是ノ如シ
然ルニ批准一糸貴國ノ禮典ニ拘泥レテ變通セス
遂ニ文誼ヲ傷ルニ至ルハ誠ニ惜ム可レ本大臣
ノ言フ所今日ハ御領解ナラサルモ他日必ス御領
解アラシ

申

器物ヲ以テ御比喩ノ趣ヲ解セリ候。ラ器物ハ
左モアルハシ君臣ノ情ハ之ニ異ナリ變通ハ不
相成ナリ祖貴國ニ對シテハ過刻貴覽ニ供シ
ル議政府照會文ニモ情同兄弟ト有之如ク益旧
好ヲ敦クセントノ意ナレド批准署名ノ儀ハ是
非御断リ申度尤貴國ヲ除クノ外各國トハ何
迄モ修好結約ハ為サレナリ

大臣

君臣ノ情義變通不相成ハ義知セリ然レモ茶約批准
ハ臣下ニ對スルノ辭ト雖モ兩國交換スヘキ者ナ
レハ官國ハ對シ交際ノ禮ニ關係ス右ハ昨夜宮本
ヨリモ経述セシ等更ニ便法ナレ貴大臣等一概執
柳御名ノ事ヲ肯シセサレハ幾回辯論スルモ無益
ナリ今夕ハ是ニテ辭去スヘシ

尹申

仰ノ通夜深ニ及ハハ辭別イタスヘク御名一條
ハ猶御熟考被下度其祀ノ箇條ハ總テ異議コレ
ナキナリ

大臣

誠ニ遺憾ノ次第ナリ御名ノ儀ニ異議ナカルヘシ
ト察シ不日双方鈴印ノ運ニ至リ諸事結局ノ上ハ

過刻申述ヘシ當地ハ携来ル所ノ大砲一座國王殿
下ハ獻ヒ貴大臣等ニハ短銃ヲ贈呈セント專ラ修
好順成ノ日ヲ待テ居シニ豈料ランヤ忽々起程ノ
事ニ立至リ貴大臣等他日悔フルヲ無キヲ要マ
ズ然先ツ今晚ハ當地ニ滞留スヘシ
右ニテ談畢ル十二時帰館

二月二十一日午前十時森山茂鈴木大亮朝鮮
國大臣申摠ト其旅館ニ於テ談判浦瀬裕通譯官
木小一野村靖同座

森山

昨夜執事廳ニ於テ御應接ノ際貴國王殿下ノ批准
御名ノ義ニツキ貴大臣云フ我大臣演述ノ旨趣前
後相違セリト然ルニ該件ハ我大臣ニ於テ相違シ
タル際絶テ無之ニヨリ最前兩訓導吳斐勳我旅館
ニ未リ條約案ヲ寫取リタル手續等寫ト申述ハ
語ヲ生シタル原由ヲ詳明ニ致スハキ旨我兩大臣
ノ命ヲ受テ參館セリ

申

我國王殿下ノ御名ヲ署スルノ一案ハ縱令最初
ヨリ御談判ニ相成タルニモヤヨ國法上ニ於テ
必ス批シ得ヘキ事柄ニ無之況ヤ條約案ノ寫既
ニ我朝廷ニ奏聞シタル上ハ御實ノニニテ相違
候様致度

森山

兩訓導ノ寫取タル條約案一應拜見致度候
申大臣玄音運ニ命シ該案寫ヲ出サシム乃チ
我ノ原稿ニ照合シ王御實三字ヲ塗抹シタル
ヲ見出タリ

鈴木

本月十二日執事廳應接ノ時我大臣此草案日本國
以テ修好結約ノ條款ヲ演述シ了リ後刻訓導ヲ我
公館ニ遣リ寫取ラセントノ旨貴大臣明言セラレ

タルニ翌十三日午後一時マテ該員就館セヌ同日
 ノ談判ニ於テ我大臣ヨリ之ヲ責大臣ニ促シ午後
 四時慶錫普運乃チ未ル森山及予之ニ接シ原稿ニ
 就キ逐款講明シ普運筆ヲ執リ之ヲ漢文ニ譯セリ
 御批案ノ尾ニ朝鮮國王李某ノ下ニ方取ヲ画シ鈐
 印ノ位置ヲ示シタルヲ見西人ヨリ臣子ノ予國王
 ノ姓名ヲ真寫スル能ハス朝鮮國王御寶ト譯シタ
 キ旨ヲ申述タリ依テ意譯ヲ用ルハ敢テ禁スヘキ
 ニ非ス然レトモ兩國互換スヘキ小書ハ現ニ御名
 ヲ署セラルヘキ旨ヲ答ヘ且此譯文ハ我國文ト適
 合セリル字面夥多アリ故ニ今唯其主意ヲ認メル
 ノミトシハ行文ハ他日ノ協議ニ付スヘキ旨ヲ確
 ニ西人ヘ申聞置タリ然ルニ王御寶ノ三字ヲ塗抹
 シ別ニ捺頭シテ之ノ改書シ單ニ御寶ヲ鈐スルノ
 ミニテ朝鮮國王御名ヲ記スルノ意ニ非スト言フ
 ハ甚タ不審ナリ加ルニ昨ニ十日官本大丞小牧幹
 事及余三人普運ト會シ該案文字ノ適否ヲ協議添
 削ノ上御名ノ二字ヲ補入シタリ是固ヨリ意譯ヲ
 改メ直書シタルノミナラハ更ニ紛議ヲ生スヘキ
 ノ理ナシ今幸ニ普運モ座ニ在リ寫ト御調査ノ上
 間違タル原由ヲ詳明致度候
 申
 我國王御名ヲ記スルハ國法ニ於テ何事ニモ施
 シ臣レ單ニ御寶ノミニテ相濟シ候様幾重ニモ
 御周旋ニ預リ度候
 森山

御名之ナリテハ條約交換不相調旨既、我大臣ヨ
リ申述ラレタル通ナレハ我等ヨリ周旋ノ義ハ御
斷致候唯今鈴木ヨリ演述シタル手續ニ據レハ我
大臣、於テ前後相違ノ處毫モ無之然ル、昨夜ノ
御辭ハ何等ノ御考ニ候哉

申

誰ノ間違ニモヤヨ今更取糺スニモ及フ間敷唯
御寶ノミニテ結約ノ義ヲ企望候

鈴木

該案寫取ノ手續既ニ繰陳ノ通ナリ我方、於テハ
毫モ間違ノ處無之ハ勿論殊ニ三字ヲ塗抹シタル
證據モ判然タレハ全ク貴方ニ生シタル齟齬ト相
認メ候

森山

我大臣ノ談判前後相違シタリト申サレタル主意
承リ度候

申

既ニ御寶ノミト我朝廷ニ奏聞シ置タル故再ヒ
御名ノ事ヲ申述サハ在京ノ諸大臣等前後齟齬
セリト疑念ヌヘクトノ意ヲ陳ハタル事ニテ全
ク貴國大臣ニ於テ相違セラレタリトノ譯ニハ
無之候間貴大臣ハ可然御申立相成度候

森山

承知致シ候我大臣ニ對シ相違シタリトノ義ヲ申
サレタルコト無之段貴大臣ノ御答詞儘、稟報可
致候

0353

REEL No. 1-0029

右談畢テ森山鈴木歸館宮本野村留ツテ別ニ議スル一所アリ

REEL No. 1-0029

0364

史材二

二月廿二日兩大臣密ニ計ル可アリ將サ去テ
 本船ニ帰ラントス午前十時三十分安田少判官
 ラシテ代ツテ別ヲ彼兩大臣ニ告ゲレハ少判官
 先ツ申據、寓ニ至リ面接ヲ乞フ荒川徳滋通譯
 ス
 少判官 今爰ニ貴大官ニ面晤ヲ乞ヒシハ他事ニ
 アラズ乃チ貴大臣ニモ兼テ了知セラル、如ク
 我兩大臣本日イヨク帰艦セラレントスルニ就
 キ自ラ貴寓ニ来リ告別スルハ本意ナレド行事
 様々其儀ニ能ハズ依テ余ヲシテ代テ別ヲ貴大
 官ニ告ゲレハナルナリ
 申貴大臣今モヨリ帰艦セラル、トハ真ニ愕
 然ノ次第ナリ敢テ向フ其儀既ニ決定セル
 ヤ
 少判官 既ニ已ニ決定シテ今將サニ登セントシ
 余ヲシテ別ヲ貴大官ニ告ケレハナルナリ
 申兩國高量ノ、今マ將サニ美果ヲ呈セント
 スルニ際シ貴大臣ノ帰船セララル、ハ實ニ
 余ノ遺憾ナリ希ッハ君余ノタメニ貴大臣
 ニ請ヒ四五日間其登程ヲ弛クセヨ
 少判官 余ハ唯我大臣ニ代リ別ヲ貴大臣ニ告グ
 ルノミヲ任ゼラレタル者ユハ出発ノ期ヲ弛ク
 スル義ハ御約束イタル難シ
 申君ノ言ノ如クナラバ余將タ如何ヘン君偏
 ニ余ノ心事ヲ亮察レ如何シテ可屈哉請フ

為之ヲ示セ

少判官如何シテ可宜儀ヤ余ヨリ陳述イタシ難シ
然モ余ノ意見ヨレバ約束ヲ嚴メテラハ、ヨ
リ外有之間敷何トナレバ昨夜モ野村權大丞ト
内話セラレシタル未去訓導ヲ今早朝我館ニ被遣
ノ約束ナリシト聞ケリ然ルニ今マ日既ニ午ナ
ラントシ訓導未ダ来タラズ此等ハ真ニ詳細ノ
事ニ屬スト雖ドモ約ニ違フヲ意トセザル者誰
カ之ヲ信ズル者アラシク況ンヤ我大臣ニ於テハ
苟モ人ト約スルコトアルバ毫モ之ヲ變スルコトナ
ク且ツ一タヒ決意セシコトハ教テ中道ニモテ之
ヲ廢セズ故ニ假令余ハ貴大官ノ心事ヲ料リ百
方之ヲ止メント欲スルモ我兩大臣何ゾ余輩ノ
言ヲ聽カン貴大官夫レ之ヲ諒察セヨ

申真ニ君ノ言ノ如ク約束ハ堅確ヲ尊ブハ勿
論ナレド昨夜深更ニ及ンデ吳慶錫京師ヨ
リ帰り同人ノ帯ビ来リタル朝命ノ旨モア
リテ訓導モ之ガ為ニ頗ル多忙ナリシユ
ハ本意ナラズモ斯ク遅延セシナリ然モ今
マ吳慶錫ト共ニ既ニ超夫貴館ニ到ルベキ
苦ナレバ請フ君其意ヲ了怨セヨ

少判官其情實ハ免モ角モ昨夜ノ約ニ違ヒシニ
相違ナシ追々時刻モ推移レバ我大臣モ既ニ
出發セラルナルバシ請フ辞シテ退散セン判
官等ニ對テ申大官ト別レ願テ伊滋派ノ屬ニ到
リ面晤ヲ乞フ少判官陳説ノ煩テ次第ニ申儀ト對話
ナラズニ異

尹君ノ告知ヲ領シ余ノ驚愕何ゾ之ニ如ハシ
然ルニ申大官ハ君ノ其言ヲ聞キ如何拜答
致セシ耶

少判官申大官ハ四五日間其出祭ヲ猶豫セン様余
ヨリ我大臣ニ懇請スバキ旨余ニ依頼セラレタ
レド余輩ノ敢テ止メ得バキニアラザレバ唯其
意ヲ逐一陳述スバキノミヲ約シ置タリ

尹貴大臣ノ斯ク輕遠ニ出祭セララルハ實ニ
意外ノ事ト云ベシ兩國商議ノ次第モ遂ニ
之ガシメニ画餅ニ属セシ余ハ遺憾ニ堪
ルナリ

少判官我大臣ノ本日此地ヲ祭セララルハ以テ輕
遠ト稱セラルハハッリ解クシレガタシ既ニ先夜
兩國大臣面接ノ節ニ於テ我大臣ノ此地ヲ祭ス
ベキ旨ヲ述ベラレシハ閣下ノ親シク聞カレシ
可ナラズヤ抑之官本野村兩大臣ヨリモ屢々其
旨ヲ具陳イタシ置タル苦ナリ何ゾ之ヲ以テ輕
遠ト為スヲ得ン

尹是レ真ニ君ノ言ノ如シ而シテ君ノ申大官
ニ説カレシ所ニヨレバ余輩若ニ依頼レテ
貴大臣ノ出祭ヲ止ムルモ出表ガルガ如シ
然レバ此上ハ余輩自ラ貴館ニ就キ貴大臣
ニ面シ余輩ノ情事ヲ吐露レ以テ奉日ノ出
祭ヲ思ヒ止メテ様懇請スルノ外ナシ

新是禮人ニ請フ先ツ一杯ヲ酌ソ
酒ヲ命ズ
少判官 厚意謝スルニ堪ハスト雖ドモ追々時刻

モ押移レバ請フ辭シテ退出セント遠ニ帰館ス
領テ被兩大臣趨芝我館ニ就キ我兩大臣ニ接シ
頻リニ使事ノ結有既ニ述トニ在ル旨ヲ説キ
五日間其出發ヲ見合サンコトヲ請フ兩大臣聽カ
バ應接ノ次第ハ別帛ニ詳カナリ

午後一時過大臣文武随員ヲ率ヒ後仗兵ニ護セ
ラレ公館ヲ發ス副大臣宮本野村小牧鈴木ハ尚
ホ止ツテ談府ニ在リ午後三時大臣哨舟ニ駕シ
鎮海門ヲ發ス外ニ哨舟三隻護送ノ海兵三十名
及ビ若干ノ携帶品ヲ載セラ随ツ日進艦附屬ノ
濠艇之ヲ曳ク時正ニ起潮ニ際シ航行頗ル遅緩
ナリシガ遂ニ六時三十分ニ至リ一統本船ニ安
着ス

二月二十二日黒田大臣井上副大臣將ニ本艦ニ歸
ラントシ理裝既ニ了ル午前十時三十分接見大
官中樞副官尹滋承我公館ニ就キ談判浦願裕通話
官本小一野村靖於本大亮陪座

申

本日歸駕ヲ命セラレタル旨貴隨員安田ヲ以テ
報セラレ驚愕為サシテ知ラズ只管歸程ヲ緩
マセラレシトシテ為ニ參館イタセリ

大臣

殊ニ高趾ノ勞セラレ感荷ニ堪ヘス然ルニ前日未
會商ヲ經シタル件中追々齟齬ヲ生シタル事アリ熟
之ヲ察スルニ遂ニ修好ノ目的ヲ達スル能ハサル
可レ故ニ遂ニ歸艦ニ決意シタリ本大臣自ラ貴寓

ニ於テ到リ告クヘキ筈ナレトモ潮候ノ都合アリ
時限已ニ迫レリ請フ此ヨリ辭別セシ

申

日泰會商ノ件殆ニト順便ニ就ク今ニシテ歸ラ
ルハ本大臣等實ニ遺憾ニ耐ヘス今ヨリ五日
間ノ猶豫ヲ賜ラハ實ニ無限ノ大幸ナリ

大臣

修好ハ彼我人民ノ安危ニ関スル兩國政府ノ重大
事件ナリ速ニ順成ノ功ヲ奏セサル可ラザルハ頃
日以未幾固ニ辯論セリ然レトモ今マ仍ホ其結果
ヲ得ルノ目的ヲシテ故ニ本日歸艦ノ事ニ決シタリ

申

昨夜吳慶錫京城ヨリ歸レリ其報ニ依レハ今般

ノ事廟議皆順成ニ就ケリト想フニ條約案ヲ清
書スル迄ナリ猶又直ニ同人ヲ上京セシメ廷議
ヲ促カスヘシ故ニ四五日間ノ猶豫ハ是非トモ
許諾セラレタシ

大臣

此次會商スル所ノ事順成ニ至ラサレハ兩國ノ旧
好三百年ノ入アルモ一朝之ヲ塗沈ニ委スルハ
ナラスニ絶クニ于女ヲ以テスルナキヲ保スル能ハ
ス是本大臣ノ深ク憂フル所ナリ貴國和好ノ議ヲ
ル采シテ貴大臣ノ言ノ如クナラハ順成ノ功期ヲ
刻シテ俟ツハレ然ラハ姑ラク解纜ヲ駐メ明日ヨ
リ四日間船中ニ在テ決答ヲ俟タシ委細ハ副大臣
ヨリ申述スハレ本大臣出發前ニ辨スヘト急務ア
リ請フ此ヨリ辭別セン

黒田大臣乃チ辭シテ出ツ

副大臣

既ニ黒田大臣ノ言ノ如ク此回ノ議ハ容易ニ協成
ニ難タルハレ何ントナレハ貴國政府ヨリ交付セ
ラルヘキ謝辭ノ草案ヲ見ルニ語気辨解ニ涉リ謝
辭ノ實ナシ加フルニ過日既ニ我意ヲ領セラレタ
ル要揚艦ノ件ニ至テハ案中一言此ニ及フナシ且
前日表我隨員中ハ協議セラレシ件々免角齟齬ノ
事多シ殊ニ吳慶錫玄普運ニ訓導ノ屬取シタル條
約案其結尾ニ朝鮮國王御名印トアルヲ蓋リニ朝
鮮國王御寶ト爲シ替フ此事ハ昨日己ニ森山鈴木
ヲシテ辨セシメタリ貴大臣又御批交換ノ事六ケ

月ノ後ト約セシナド申サレシ由皆齟齬、甚シキ者ト謂フヘシ故ニ寧ロ荏苒日ヲ度ランヨリハ辭決書ヲ送り速ニ發艦セントシ案既ニ成レリ今貴大臣ノ懇請ニ仍リ明日ヨリ四日間ノ猶豫ヲ約スト雖モ若シ期ヲ愆クレハ直ニ後鎗スヘシ尤モ隨員二三名ヲ此ニ駐留セシメ以テ報知ニ便ニス委情ハ就テ商議セラルヘシ本大臣等既ニ數回ノ談判ニ於テ盡ク心情ヲ吐露セリ今日ニ又テハ列議スヘキノ件ナシ若シ條約順成ニ至ルノ運ニ會セハ再ヒ来リテ協辦セシトス

申

貴隨員官本野村ヨリ商議セラレシ件々奏聞ノ為メニ訓導ヲ至急ニ上京致サスベシ仍テハ不日ニ貴意ヲ安スルヲ得ヘシ貴大臣今日ノ發報ハ強テ止マルヲ得スト雖モ四日間ニハ必ス順成ヲ期ス可シ其時間ハ必ス貴艦ニ在テ待タシシコトヲ懇請ス

副大臣

然ラハ此ヨリ辭別セン兩國ノ和平ヲ破リ彼我ノ人民不測ノ殘害ニ罹ル等ノ事萬一モ之ナキヲ希望ス猶詳細ノ事ハ官本等ノ注意モアルハシ焉ト熱議セラルヘシ

申

事全ク順成シ貴兩大臣再ヒ上達アルノ期ヲ待ツテ面晤ソ得ヘシ

右事ヲ申尹歸ル時黒田大臣儀仗兵ヲ率ヒ公館

史材二

明治九年二月二十日 卷五
原本製三十日早朝送還

初録

REEL No. 1-0029

0373

兩國修睦行日三百年矣、惜若兄弟、邊守曰制、在安人民、
必圖復、有贈以酬、專寫持信以達事情、策館開市、毋除疆
界、請其隣好之永保、即不出禮義、誠信四字、耳、豈意近年
以書契事、兩相疑阻也、其疑阻之端、寔有曲折、兩國書契、
本自謹嚴、雖一字不中規式、則斷之執辨、此為兩國曰例
然也、東萊字彙及仕譯之不敢違定、亦照此例而然也、曾
在下卯春間、

中國禮部咨文、尋末、據總理各國事務衙門奏、天津上海通
商大臣、送呈、新開、故、云、有、

日本、李、客、人、名、八、戶、順、叔、送、來、新、開、原、稿、云、近、來、
本、國、現、有、火、輪、軍、艦、十、餘、艘、有、討、

朝鮮之志、又云、

朝鮮國王、每、五、年、必、至、江、戶、拜、謁、
大、臣、獻、貢、是、即、古、例、也、

朝鮮王、廢、例、久、故、堯、兵、責、其、罪、云、云、現、有、興、師、往、討、

朝鮮之志、因、
朝鮮、五、年、一、朝、貢、至、今、負、國、不、服、以、例、久、廢、故、也、大、抵、八、戶、
順、叔、既、是、

貴國之人、則宜解、

貴國之事、而做出虛圖之言、加以譏辱之語、并謂朝貢、誣之
於交隣、相敬之邦、可矣、興師往討、施之於修好、無釁之地、
可矣、請張、如、此、等、語、流、布、海、外、是、誠、何、意、也、韓、邦、臣、
民、守、得、無、訝、於、乎、又、安、得、無、憤、愧、乎、戊、辰、至、庚、午、書、契、之、
不、敢、違、定、者、不、惟、規、式、之、有、礙、蓋、由、誣、說、之、致、疑、然、韓、國、

之所守者即礼義誠信故傳令抄區之策守尊以遠遠塵
敵國之訓導施以身強而

責

國外務有執書契修未之後聞以礼服正門許久相持故
自學國政府閉館於策守不拘瑣細儀節俾即定執子朝
廷矣適值外務省官之遷入未及公幹旋聞

貴大臣辨理之行臨境矣今聞

貴大臣子教

國使相問答則以弊國攝作

貴國使臣為弄而書契遲滯之由悉陳如右豈或有撥弄使

臣之急哉兩國之互相疑阻以至於此悲憤痛數有不可

勝言

朝廷之議論紛紜則罷教相結軍民之款為加兵則遣使

鎮撫

國厚意何可忘也萬々感謝但弊國則既窺策守又誅

責

訓導務盡在我之道矣未嘗

國將八戶順救虛罔職辱之事如何以處之耶

責

貴大臣子與國使相持見辭氣之忠厚辨理之坦白兩國

猜疑一朝開報有以見

大人君子秉心和平為國勳蓋竊不勝欽仰若其書契礼

物重尋和輯只當運依三百年口規而大事則

責

國政府子弊國政府小幹則

國外務省子弊國礼曹比等往復永以為好或有為條之

執定者則其在痛癢相關之地必究兩相便宜倘有彼此

而此害此通而彼室則事理之在所當念惟願推以仁慈

朝

爛如商畧專

朝鮮國議政府所會

日本国辨理大臣
光緒二年正月 日

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

REEL No. 1-0029

0376

宮本野村ヨリ申渡シタル彼等約スヘキ文案

一 條約鈐印之時須併國

王御批同時交付

一 御批款式如左

朝鮮國王



用为政以
德之章

御批須與日前送來原稿意莫少異如其字句有少

潤色亦為無妨

鈐印

一 條約定議自今日期五日至該日相互將本約書
及

御批交付

一 條約各款有欲加入各節若於貴國有異議

大臣與貴官等商量直決其事必須莫愆五日互

換之期

一 議政府照會文案簡意盡須如前夜由野村送

來文案之意又自今日五日交付

宮本野村ニ交シタル憑單

條約與御批同時交付事即送仕官稟議周旋

大朝鮮國君王批准規式

批准中辭意無異字句當潤色

政府照會文字亦當從其文簡意約以五日交付

條約各款中可以添入者并於細目議定時更議事

右諸條定議日字期於以五日為定

丙子正月二十八日

接見大官 申 穩

副大官 尹滋承

朝鮮國議政府照會文擬案

兩國修睦行且三百年矣使幣往來情若兄弟各安人民無相爭嚇戊辰以來因未審貴國革新狀由以未種、疑端貴國屢次使書未遽接受終為隣誼阻隔之地昨秋會貴國派船抵江華島又致紛擾迨此次貴大臣奉使臨境與敵國使相接得領盛意淫前猜疑一朝開歇曷勝痛歎如承示立約各款我 朝廷既委敵國使會商戊辰以來兩國往來公文應均廢為故紙庶永遠親睦共謀兩國之慶亦足以昭我國善鄰之誼矣

朝鮮國領議政某照會

日本國特命全權辦理大臣某

手松平家

二月二十七日條約調印既ニ濟ミ里田井
上西大臣江華府ヲ登シ頂山嶺砲場ニ
歸ラル宮寺野村ニ以仍留マリテ被ノ申
極大度ノ寛ミ茲キ説諭スル所ノ畧記

本日條約調印済ノ既締結得等畢ル
野既ニ兩國和親ノ條約調印マデモ相済ミ
シ上ハ本日ハ殊更懇情ヲ以テ締結ヲ奉
レ生事出発ノ期ニ臨ミ猶貴聴ニ達シ至
度伴々清咄シ可申ニ甘言ト内聽取之レ
アリタシ
申意意ヲ了ス

史料二

野今般我國ニ於テ現ニ兩大臣ヲ以差立シ
ルニ付テハ貴國ニ於テモ速ニ答礼ノ使
節ヲ我國ヘ差立シテオ奉ト存ス元來
兩國ニテ對等ノ礼ヲ立ワル上ハ務メテ
事物ノ平ヲ得事ハ勿論ナリ迄々清咄
目申セシ如リ我國ニ於テハ偏ニ三百年
ノ旧交ヲ重ジ候ヨリ現ニ赤糸知ノ通り
貴國ノ大臣ヲ以おシ數隻ノ軍艦ヲ以テ
千里ノ波濤ヲ越ヘ泛来シ紛紜ヲ排除シ
重々和好ヲ結ビタル一義ハ右ノ由費ノ
ミヲ案レテモ真ニ容易ナラザルナリ
況レテ泛来去國成ヲ安スルノ形行ヲ以
テスレバ今般モ尋常ノ談判ニテハ速モ

西郷ル向致ト見込ニ乗テ出シ申セシ如
 ソ時聞長崎等ノ地ニハ數多ノ軍艦及ビ
 兵隊ヲ繰リ出シ之レ有リ此等モ皆是レ
 兩國ノ和好ヲ重シスルノ主意ヨリ出タ
 ル事ナリ此辺ヲ考ヘラレテ貴國ニ於
 テ和好ノ本意ヲ表シ速ニ使節ヲ答派セ
 ラルハハ當然ノ様ニ被存存然ルニ我カ
 田幕府ノ時ニ貴國ヨリ使節ヲ我國ニ差
 立ラルハ容易ナラヌ又雜費モ掛ル由承
 タリ右考ハ今日ニナリテハ寧ニ無用ノ
 事ニテ方今ハ各國トモ使節ヲ派出不スル
 ニハ書記官トモ僅五六名位ニ過スシテ
 其簡便ヲ貴國ニ其繁擾ヲ除キ惟々情味ノ
 相通スルヲ主トス故ニ自然貴國ヨリ使
 節ヲ答スルニ至リ茲ハ金山マデ出
 浮ニ廿ハナレバ持々我國ヨリ往復ノ便
 アル汽船ニ乗込マルレバ事誠ニ容易ナ
 リ異々モ以事アリタシ
 申様々ノ差意事理自カラ當ニ然ルベシト
 存ス詳ニ我朝ニ具申スベシ
 宜ク野村ヨリ申上ケシ如ク貴國ニテ愈
 ニ使節派遣ノ煩勞ニ相違ヘハ誠ニ大慶
 ナ事ナリ金山ヨリ我國ノ差氣私ニ乘込
 マレ下ノ國ニ至リ夫ヨリ郵便私ニ乘リ當
 へ東京ニ至ルハ實ニ簡便ニテ成ルコト
 出費モ極テ又操ニ周旋致スベシ且ツ政



府へハ進贈物等ハ一切セリナリシテ可
 ナリ昔日ハ贈答ヲ厚シテ礼トセシカレ
 方今ハ孰レノ國ニテモ贈品ヲ持参スル
 者ノ事ハ更ニ盛ニ此度而大臣ヨリ諸品
 ヲ呈出シテ此レ是レハ條約既成ヲ喜ブノ
 心ノ溢レテ其レガ若クニ斯クシタルコト
 決シテ帝時使節往復ノ例礼ニハ之レ無
 シ
 料差使差遣ノ事ハ以テ方ニテ期限ヲ刻ス
 ル談ニハ之レナリト雖モ成ルベリハ六
 ヲ月後區高章程取調ニナル其儀ニナサ
 ル事ハ我國ノ事情モ備サニ分リ我政府
 ノ誠意ヲ解了セラルベシト去六月以
 ト申シテハ貴國ニテ猶其都合ニ遅ビ難
 キ①ナラバ先ヅ本使節ニ及バズ理事官
 又ハ遊覽書生ニテモ我國ノ形勢ヲ視
 察スベキ人物ヲ差立テルノ様ニ相成ル
 時ハ猶更手輕ニテ能ク相分りルベシ一
 体貴國ニテハ我國人ノ洋服ヲ着クルヲ
 見テ日本人人ハ残ラズ表敬ニ愛性シタリ
 ナド云フ人多クアリ又其外ニモ種々六
 ケレキ義禱ナドスル人モ有ルヨレ可成
 ハ斯ル人達ヲ出サレ我國ノ實況ヲ目撃
 レテ苦心スル所アラレバ殊ニ貴國ノ
 都合ニモ好カルベシト存ズ
 申
 成程九様、者ヲ遣ス方至極可宜ト存セ

ラル何レニモ朝廷へ申上らば右ノ運
 口ニ至ル様ニ御座スベシ若シ其城ニ
 至ラバ殊ニ西居^ノ國^ノ事ヲ煩スヲ信フ
 野^ノ領^ノ承^ノ河^ノ様ニモ^ノ因^ノ意^ノスベシ
 野^ノ釜^ノ山^ノ浦^ノノ^ノ美^ノハ^ノ泛^ノ東^ノノ^ノ交^ノ易^ノ場^ノナルガ六^ノテ
 月^ノ後^ノ直^ノ高^ノ章^ノ程^ノ取^ノ極^ノノ^ノマ^ノデ^ノハ^ノ先^ノツ^ノ日^ノ燮^ノニ
 由^ノラ^ノガ^ノル^ノウ^ノ得^ノガ^ノル^ノベ^ノレ^ノテ^ノ去^ノ去^ノ國^ノニ^ノテ^ノモ
 比^ノマ^ノデ^ノノ^ノ通^ノリ^ノ余^ノリ^ノ通^ノ殿^ノニ^ノ取^ノ信^ノラ^ノレ^ノテ^ノハ
 自^ノ然^ノ終^ノ緒^ノヲ^ノ確^ノシ^ノ今^ノ般^ノ修^ノ約^ノノ^ノ主^ノ意^ノニ^ノ情^ノル
 ノ^ノ境^ノニ^ノ至^ノル^ノナ^ノキ^ノモ^ノ必^ノス^ノ可^ノラ^ノズ^ノ故^ノニ^ノ成
 ル^ノリ^ノケ^ノ寛^ノ裕^ノニ^ノセ^ノラ^ノレ^ノタ^ノシ^ノ慶^ノ一^ノハ^ノ終^ノニ^ノ石
 姫^ノヲ^ノ起^ノへ^ノ出^ノレ^ノバ^ノ越^ノラ^ノ殿^ノ作^ノレ^ノ又^ノハ^ノ際^ノ町^ノ前
 ニ^ノ至^ノレ^ノバ^ノ忽^ノケ^ノ扉^ノヲ^ノ閉^ノツ^ノル^ノ私^ノノ^ノ事^ノハ^ノ郵^ノキ
 操^ノニ^ノナ^ノサ^ノレ^ノタ^ノシ^ノ在^ノモ^ノ以^ノ方^ノニ^ノ於^ノテ^ノモ^ノ精^ノ々
 注^ノ意^ノニ^ノ強^ノ歴^ノラ^ノレ^ノキ^ノ様^ノナル^ノ一^ノハ^ノ成^ノサ^ノセ^ノマ
 申^ノ是^ノレ^ノマ^ノタ^ノ領^ノ事^ノ又^ノ連^ノニ^ノ之^ノヲ^ノ東^ノ美^ノ府^ノ使^ノニ^ノ通
 達^ノス^ノベ^ノシ^ノ係^ノニ^ノ交^ノ方^ノニ^ノ於^ノテ^ノモ^ノ成^ノル^ノタ^ノケ^ノ注
 意^ノセ^ノレ^ノ一^ノヲ^ノ望^ノム
 野^ノ本^ノ日^ノ條^ノ約^ノ調^ノ不^ノ濟^ノノ^ノ上^ノハ^ノ摺^ノリ^ノ練^ノ策^ノ府^ノへ^ノ達
 ス^ノル^ノノ^ノミ^ノナ^ノラ^ノズ^ノ彼^ノノ^ノ條^ノ批^ノニ^ノ速^ノニ
 全^ノ國^ノニ^ノ布^ノ令^ノセ^ノラ^ノル^ノベ^ノキ^ノト^ノ存^ノス^ノ我^ノ國^ノニ
 ラ^ノハ^ノ連^ノニ^ノ條^ノ約^ノ文^ノヲ^ノ刊^ノ刻^ノシ^ノテ^ノ全^ノ國^ノニ^ノ布^ノリ
 事^ノ例^ノナ^ノリ
 申^ノ勿^ノ論^ノ全^ノ國^ノへ^ノ布^ノ告^ノナ^ノス^ノベ^ノシ
 野^ノ能^ノ日^ノ聖^ノ考^ノセ^ノシ^ノ貴^ノ國^ノ々^ノ殿^ノノ^ノ受^ノハ^ノ連^ノニ^ノ造^ノ整

シテ一本ヲ送席セラハ右ハ同盟国
互ニ慶弔ノ事アル時ニ必要ノ具ナレバ
送席ノ速ナルヲ期ス

申領承ス且亦朝廷へ具陳シ我儘為差違ノ
事アル時ニ携挙セシムル

野相多一事改メテ申入レタキ事アリ他ニ

アリズ本日既ニ和親通商ノ條約結了ニ
付テハ六ケ月後ニハ彼ノ通商章程ヲ議

立スべシ然ルニ本日ノ條約ハ云ハレテ而
國相和親スト云フノ

其實ナリ實ヲ踐マザレバ名別テ無用物
ニ属ス故ニ若シ彼ノ章程ヲ議スルノ時

ニ至リ双方ノ議事相背於紛銘スル一
アレバ自ら本條約ノ意ニ悖違スルナリ

ヲ以テ再ビ不則ノ事侍ニモ立ケ至ルべ
シ其期ニ至ラバ閣下今日ノ勇意モ立レ

シ水泡ニ帰スベシ此事無台モ中上至ク
ニテ名実相反セザル様ニ務メ安慶ヲ

注ガレタシ先未兩國ノ間對等ノ權ヲ相
有シ其盟ヲ永遠ニ傳ヘント欲セバ別ケ

互ニ富國強兵ヲ以テ其國本ヲ固クセガ
ル可ラズ而シテ富國強兵ノ道ハ其本人

民繁殖シ有無相通スルニ在ルベシ有無
相通シ人民繁殖スルニ非ザレバ以テ富

國強兵ニ由ナシ富國強兵ニ非ザレバ別
ケ永遠ノ親盟ヲ期シ難シ既レヤ若今世

勢一変シ歐米各國互ニ其富強ヲ競ヒ萬
 里ノ波濤ニ時日ヲ刻シテ未往スルノ活
 動世界ニ際レテ是ニ無形ノ精神ヲ透キ定
 數ノ天際ヲ頼ンデ萬國ヲ拒絶シ自テ孤
 立セシトスルハ實ニ愚ハザルノ甚シキ
 名ナリ 是日モ反ニ種々ハハ區區章程議
 立ノ日ニハ米穀輸出ヲ禁止ナシタキ
 トノヨレ又國産物産賣少以テ他ニ出ス
 ニ足ラズ去リトテ他ヨリ仰ガザルヲ得
 ガル者モアリ云々ノ陳説アリシヨレ右
 ハ一通リ市右ノ様ニ南エレ^ニ米穀經
 海上ニ於テ尤ナル如違ノ事所見ト云ハ
 ガルヲ得ズ我國ニテモ二十年來ハ矢張
 右ノ如キ説ヲ主張セシ人多敷也レ有リ
 其^事如キモ即チ其一人ナリレガ違々
 ト經濟學向ノ開クルニ從ヒ今日ニ至リ
 テハ全ク益日ト反觀ノ見込ト相成リタ
 リ
 是是米穀輸出ヲ許セシ最良ノ形況^鐵
 年飯^人ノ有無及ビ物產運輸ノ事考
 ラ^ヲ論述ス
 右ノ訣ニ付キ盟約永殘富國強兵ニ到底區
 區章程ノ實事ニ歸スルナリ且又現^況以テ
 泰^之ニ信國日本及ビ米國^氏相互ニ致々
 トレテ富強ノ實ヲ謀ラザル可ラザルナ
 ハ過日モ陳述セシガ如シ思フニ米穀ノ

中分ナガラ貴國ニテハ此上人民ニ増強
 ラ調スル一ハ難カル可シ付テハ以修ニ
 テハ差當リ軍艦ヲ造リ立ル業ニ着
 手セラル、一モ難カムベシ右等ハ失教
 ノ様ニ印工レ氏生等老國ニテ洋米經販
 上ヨリ檢シ得タル事ヲ鉅計ニ及セヤ
 中軍艦製造善ハ微カニテ中々企及所ニ
 アラズ且フ若國ニテハ開祖以來三綱五倫
 ノ道ニ従事シ天嶼ニ據リ外侮ヲ禦リテ
 知り絶テ外國ト交通セズ経路ノ遠等ニ
 至テハ實ニ花多トシテ之ヲ知ラズ亦日
 ノ高談具ニ會ハス猶舊ト朝廷ニ申告セ
 定只今野村ヨリ富國強兵術ヲ申述タリ右ハ強世
 上ノ要務ニテ一日モ打奪ラレ難キナナルハ申
 ス迄モ無シ右ニ付キ思考スルニ貴國人民ハ鬼
 南効強カニ是レキヨシ承ハレ氏人間ハ誰
 ニテモ強ノナキモノハ也レナシ導リニ
 導ラ以テスレバ自然ニ強クイタスベシ更
 レニ付キ今強ニ比強ノ術ヲ申シ上クニ
 一俸上書ハ物ヲ以テ物ニ換ヘ之ヲ有無
 貿易スト云フ一ト也此ハ勿務外國貿易
 モ同様ニテ何レノ國モ同シ然ルニ其ハ
 上計リノコトニテハ譬ハバ甲ノ
 人ハ銅ヲ所持シ也トシテ賣ラント
 欲シ乙ノ人ハマタ米ヲ賣ラント
 欲ス然モ乙ノ人ハ銅ノ入用也トナリ甲

ノ人モ米ノ入用無乏時ハ互ニ賣買モ出米ス又甲
ノ人ハ米ヲ買ハント欲スルモ所持ノ銅更ニ賣ルサ
レハ其ノ米ヲ買フヘキ代物ナシケ様ナリ譯ナルニヨリ
錢貨ナル者ヲ制シテ貿易ノ媒トス既ニ貴國
ニモ常平錢之ニアハ右ノ理ハ解了セラル、ナル
ハシ今殊ニ~~此~~況リ費サス唯其ノ便利ヲ一層
多シセ~~レ~~望ム所ハ金銀貨ナリ金銀貨ナケハ人
民ノ憤怒力ノ起ラサル者ナリ~~支~~故ニ孰レノ國
ニモ鑛山ヲ開キ金銀採堀ノ便ヲ謀ル
是ニ於テ日本金銀銅紙幣ハ四種ヲ出シ乃チ銅
錢百枚ヲ以テ銀錢一枚ニ換レ銀錢十枚ヲ以テ
金錢一枚ニ換フル譯是レ一圓金ハ貨幣ノ本位ナ
ル事金銀ニ銅ヲ混和スル分量ノ譯等リマ細示ス
斯ク銅錢ハ小數ノ者ヲ賣買スル為ニ作りタル者ニテ若シ
此ノ銅貨幣ノノミナル時ハ~~此~~譬ハハ船ヲ買ハント時ハ山ノ
如クニ銅錢ヲ積ミ立サレハ其物ヲ買入得ス其不便ナ
是ノミナラス譬ハ旅行セント欲スル時ハ~~此~~携帶スル便
ナラス又前~~此~~云ヒシ如ク~~此~~米ヲ賣ラント欲スルモノ銅ハ
不用ナル時ハ金銀ヲ受取り米ヲ賣ラニ其金銀ハ
何程ニテ~~此~~貯入置ル、モノ故是レガ即チ自然ト富民
ノ出來ル譯ニテ此富民ノ多キ則チ富國ノ基ト云フ者
ナリ支那ニテ馬蹄銀ハ之レ有リポツト切リテ使用
スル由ナシ~~此~~今茲ニ貴國見スル、通リニ大小幾種ヲ~~此~~製
シ出シ一般ニ融通スル程ノ便利ニ及ハス
申貴國~~此~~了感服ス然レニ一朝急ニ之ヲ我國ニ施
サント欲スルモ中々行ハレサルハ~~此~~既ニ先年我國ニテ

進マ

當百錢ヲ作り出セシ處農民共ハ之ニ服セス六年
計リノ内ニ忽チ不用トナリタリ今日ト云比貨幣
談判ヲモ外ニ漏ルルハ民間ニテハ又ハ何事ヲ仕
出スヤラントテ忽チ沸騰スヘキニ付我國ニテハ容
易ニハケ様ノ事ニ手ヲ着ケテ復又ルナリ
官申サルハ所ノ當百錢トハ何程ノ量目ニテ製造ナ
シトヤ常平錢百枚ノ重サカ又ハ七八十枚位カ或
ハ拾枚若クハ二拾枚位ノ重サカ
申大概拾枚位ト考ヘラレ
官其レ故ニ民間ノ沸騰ヲ起セシモノト思ハルソノ
故ニ紙幣モ同様ニテ真ニ常平錢百枚ノ價之
ナキモノヲ以テ強テ百枚ニ通用セシメントス故ニ心
適セサルヘシ我日本ニテモ昔日ハ此ニ類スル事許多
アリテ人民不義服ノ未段タトエヌヨウシ此ノ新貨
ヲ用フル事ニ至リテ紙幣ト申ス者ハ眞價ノ金銀
アリテ之ニ代用スル者ニテ人民モ旅行等ニ眞金銀
貨ヲ携帶スルヨリ紙幣ヲ携帶スルノ輕便ナル
等ノ便利ヨリシテ金銀ノ代用ニ行ハル則チ此貴
覽ニ入ル我カ紙幣モ專ラ内地ニ通用致スナリ
ケ様ナル譯ナラ貴國ニテモ眞ノ金銀貨ニテ通
行セサルハ有マシト考ヘラレ鑛山ハ殆リ尽ス際限
ノアル様ノ者ニハ之レ無ク申サハ無ク職同様ナリ
茲ニ出セル其ノ金銀貨ハ貴政府ハ差シ出し申スヘシ
今日貴政府ニテ是非金銀ヲ製造セラレト申ス
ニハアラサレバ經濟ノ事ニ必用ノ者故テ考備
フル迄ナリ

申御尤ううて好意ハ忝ナラレモ此金銀ヲ預リ申スニハ又々朝廷是啓聞セサルヲ得サル付キ先ツ預リ申シ上テ難シ高説ヲ趣ニ在珍ラシキ金銀貨ヲ預シタル次第ヲ備ニ朝廷ニ申告シ經濟ノ參考ニ備フベシ

右ノ通りテ新貨ヲハ受取ラサル故持子歸リテ會計係へ引渡ス

野 貴國ノ北タノカカ^{海峽}魯領ノ中ホセツト、云フ所アリ此ハ貴國人ノ移住スルモノ甚々多シ其人ハ皆々魯國ノ貨幣ヲ使用セルヲ見レハ貴國人ト強モ慣レサハスレハ貨幣ヲ忌ミ嫌フト云フハアルマシ
宮 魯西亞國界ノ一付キ唯今野村ヨリ申上タリ備テ此事ニ付テモ一應申上置キタシ(繪圖ヲ出シ此處豆満

江ニテ貴國ト魯領トノ境界ナリ此ホツト港ハ昨年我政府ヨリ官員ヲ差シ駕ト地理并貴國人民ノ追々魯領ハ投入スル實況ヲ視察セシメタリ其上々ニナリテ更ニ官員ヲ出シ此々ヲ越シ今以滯勤セリ此ノホセツトハ魯國ノ精兵凡ソ三子計モ在リ貴國人民ヲ追々ト^境境界ヲ廢跡ニシ次第ニ貴國ヲ蚕食セシトスル姿アリ且ツ又拙ノ朋友ニテ當時魯ノ國都ニ在リ公使館ニ在勤セル人アリ其人ヨリ申シ來リシハ魯國近來ノ目的ヲ探クルニホセツトハ寒氣強ク冬天ハ氷海ニナリ不便利故朝鮮領ニテ此繪圖面ニ在リ永興港ノ港ヲ占有シ此處ニ兵所ヲ引移ス見レタル由ナリ果シテ然ル時貴國ハ勿論日本支那等ノ為ニモ後來ノ大害ト成ルベシ將亦今此繪圖面ニ載リ居

ラサレ此地ノ方ニ北海道ト云フテ大ナル島アリ即チ
黒田大臣其開拓ノ任ヲ蒙リ大ニ其業ニ着手セラ
レル所ナリ此真ニ又釋太ト云フ大島アリ此地ハ魯
國人移住イタシ我カ管民ニ恩惠ヲ施シタルアリ
今茲ニ委シクハ申上カタクキナカウ右ニ付テハ日本
政府ニテモ殊ノ外心配セシテアリ依テ貴國ニテモ今後
必定右様ノ患害之レアルベク只今ヨリ注意成サレ
ステハ相濟マシト考ヘ候

申 其ハ實以テ大事ナリ併シ他人ノ國ヲ剽奪スルト申ス
ハ不義ノ甚シキモノナリ何卒左様ノ事致サ
ヌ様ニ貴國ヨリ差留シテサレタシ

宮 其レハ決シテ出来申サス第一我政府ニテ表向ニ此事
ヲ承リタル事ニ非ス拙カ親友ヨリ申シ来リシ事ニ
之レヤリ其上他國ノ為ス事ヲ差留シ杯トハ彼レノ内
政ニ預ルルコトニ申モ出来サル道理ナリ一體ケ様ノ出シニ
テスラ撰リニ突言スヘカラサレナレ共今ヨリ日ハ條約モ
結了シタルハコソ拙者ヨリ内ニ忠告申スナレ是レ別
チ最初ニ懇切ト申セシ所ナリ

申 下去他國ヨリ我國ノ危害ト成ル事ハ濟ヒ下サ右
等ノ為メニヨソ條約ヲ結ビタルナレ何卒貴國ヨリ
魯國ノ説諭ハ出来申サヌモノヤ

宮 何分左様ニ参リ申サス唯今貴國ニテ境界ヲ
嚴シ十分ニ注意之レテテ魯西亞ト事端ヲ開カサ
ル様ニ取締リ成サルレハ右ニテ相濟ムヘシ
一體孰シノ場所ニテモ隣國トノ境目ハ能ハ
注意セ子ハナラヌ事ナリ不十ウチ

此は南洋の地

此繪圖面ノ如シ臺灣ハ半分青色ニテ支那領
ナリ半分ハ白色ニテ土蛮ナリ此土蛮此赤キ島
島チ琉球ノ八重山ト申ス所ニ此島ノ舟人
シ五十人計リ土蛮ノ為メニ殺サレタリ因テ
今朝鍊武堂ニテ御持遇申シタル樺山氏
杯ハ此土蛮ヲ征伐シ大ニ苦辛シ彼地ヲ攻
取リタル所ニ支那ニテハ此地ハ我領地ナリト云
出セリ因テ日本ニテハ然ラハ何故我カ屬藩
タル琉球人ヲ屠殺セシメ其終ニチ措置タル
ヤト支那政府ハ掛合ニ支那政府ハ余儀ナリ我
ニ謝シテ五十万テールノ償金ヲ出シタリ兎
角境界ノ一ハ注意無シテハ不相濟

叔又乍序申上ク先日江華灣外碇泊中ニ我通
辨ノモノ仁川へ上陸セシ所尹暎ト云フ人ニ面會ハ
同人ノ説ヲ承リタリ其説ハ多分通辨ノ間遺カ
ト存セラルレ先ツ承リタル所ニテハ尹暎氏ハ豆滿
江ノ辺ニ居ラレ曾テ魯人ヲ百五十人計リ殺シタル
由ヲ誇リテ申サレタリ彌々其事寧々説ナラハ貴
國ハ疾ニ魯西亜ノ爲メニ攻メ込マルベキ勢ニモ之レ
アルベキニ只今ニ至ルマデ何事モ承ラサル工且實
説トハ心得ナレヌ伎令百五十人ハ^{能ク}置キ一人タ
リ凡魯人ヲ殺ス様ナル^レ有リテハ貴國ノ爲メ
大慶ヲ生シ申スベシ
申暎吳慶錫トモ打笑ニ

尹暎ノ申ス所ハ全ク虚説ニ之レアリ

宮永興府ノ港ノ事ハ能ク々用心メサレヨ一休我國ニテ
此地ニ開港ヲ望ミシハ北海邊産物運輸ノ便利ナ
ルヲ主意ニシテ傍ラ我國ヨリ港ヲ開キ置キ後ハ
自然ト貴國ニモ取締リ行届カ事工工同所ヲ名
指シテ申上タル^レナレ祖先ノ凌墓アル故不都合
トノ^レ強テハ申上ケズ俟シ未タ二十ヶ月ノ期モ之レ
アル^レ故篤ト御勅考之レアリタシ

此処ニテ西細亞東部圖并ニ朝鮮圖トモ申氏
ニ贈ル彼^レ叔受ス

訓導都ヨリノ指令書ヲ取出シ

此ノ如ク永興府ノ地ニ先^神寢^陸ノ廟及レアル^レ改何
分ニモ^儀由^レテハ不相濟故決ニテ改テ^テ斷リ申
シタル事ニハ之ナシ

官其儀ハ篤ト兼知イタヒリ

申 我国王へ献上下カレシ大砲及ヒ小銃ハ貴国製

ナルル洋製ナルカ

此前訓導来リ浦湫訳官ニ面會シ右砲ニ横
文アル故定メテ洋製ナラン然レハ国王へ献納
スルニ甚タ都合悪シ如何ヒニヤ云々申シ談セ
シテアリ

野 国製洋製孰レノ令カ某之ヲ明知セ

我國武庫ニ藏セシヲ我カ大臣ノ儀仗ニ附セ

ラレシ品ヲ以テ国王殿下へ献上セラレタリ其洋

字ヲ刻シタル如キハ只今御覽セラレタル吾国貨

幣ニモ洋字アリ皆我レ之ヲ用テ彼ニ通セシルナリ

造幣寮造紙寮器械製造鑛山其外製作

場敷多アリ貴國人若シ我國ニ来ルアラハ之ヲ

見スルヲ得ベシ右等製作スルニハ洋字ナラガ

レハ切口ナドガヨク合兼ヌル事モアリ

野 今一事向合セ申置ク指定港口居留ノ日本人

遊歩規程ハ大概若ク十里即チ貴国百里四方

位ニ之レナクテハ大ニ困窮イタスヘシ如何考へ

ナサルヤ

申 我カ百里ト申シテハ余リ廣口過ル様ニ考へ

シ是等ハ細目ヲ議スルニ當リ其當ヲ定メ申

スベシ

右ニテ畢ル有者御音應ヤリ後別ヲ告ケ

帰ル